

令和4年度 心と体を一体として捉えた小学校における性教育の在り方

いすみ市立浪花小学校

1 本校の概要

本学区は、いすみ市の南端部に位置し、東は太平洋に面している。海岸部には、岩船漁港や岩船海岸、日本三地藏尊のひとつである岩船地藏尊があり、岩船海岸の岩場では、本校の恒例行事である磯観察を毎年実施している。学区の中央には南北にJR外房線と国道128号が通り、周辺には住宅があるが、森林や水田が多く自然豊かな地域である。

本校は全校児童49名という小規模な学校であり、休み時間には学年関係なく仲良く遊ぶ姿が見られ、素直で明るい子供たちである。地域の教育に対する保護者の関心は高く、学区全戸がPTAの会員または協力員として組織され、多大なる協力をいただいている。

本校では、各学年において性に関する学習や活動を各教科や領域で行ってきた。しかし、性に関する内容については、大切なものであるにも関わらず、何か恥ずかしいものとして捉える傾向がある。教職員の中にも、指導の仕方について多少の不安や抵抗があることも少なくない。そこで、学校全体で性教育の意義や内容について考え共通理解を図り、発達段階に合わせた性に対する取り組みを行うことで、性に関する内容は恥ずかしいものではないという意識や自己を見つめる考え方を育てていきたい。

近い将来、性に関する課題に直面した時、正しい知識をもとに適切な判断をし、自分の意思に基づいて行動できる児童の育成を目指すために、小学校の段階ではどのような性教育を行うことが望ましいかを明らかにすることが大切だと考え、本研究主題を設定した。

2 研究の目的

心と体を一体として捉えた小学校における性教育の在り方について、各学年や学校全体での実践を通して検証する。

3 方法

- ・各学年の発達段階に応じて、6年間での体系的な学習を実践する。
- ・保護者と児童を対象に性教育についての講演会を開催し、知識を共有する。
- ・性教育に関連する図書や映像教材、掲示物等の環境を整備する。

4 本校における性教育の実践

(1) 各学年における授業実践

学年	教科	単元名	具体的な内容
1年	学級活動	からだをせいけつにしよう	○体の汚れやすい所を発表し、汚れたままではなぜいけないのか話し合う。 ○プライベートゾーンの洗い方やトイレの時の拭き方について養護教諭から話を聞く。
2年	道徳	いちまいのしゃしん	○自分は、家族や周りの人たちに支えられて大きくなっていることに気付く。 ○子育ての実体験を聞いた後、命の大切さについて分かったことをまとめる。
3年	体育(保健)	けんこうな生活	○健康に過ごすためには、どのようなことが必要か考え、清潔に身の回りの環境を保つことの大切さを理解する。 ○正しい手の洗い方を理解し、実践する。
4年	体育(保健)	育ちゆくわたし	○思春期に現れる男女それぞれの体の変化について話し合う。 ○外からは見えない体の変化について養護教諭から話を聞く。
5・6年	学級活動	男女の協力	○「“男女の協力”で、大切だと思うことは何か」グループで話し合う。 ※KJ法 ○グループごとの発表をもとに、“男女の協力”で大切なことについて、全体で考える。

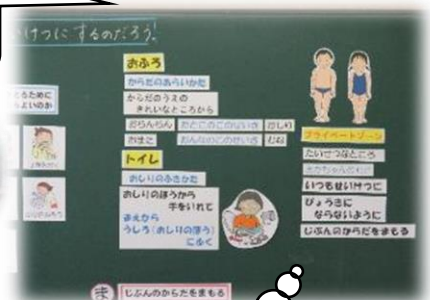
(2) 各学年における授業実践

① 1年「からだをせいけつにしよう」(学級活動)

- 体の汚れやすい所を発表し、汚れたままではなぜいけないのか話し合う。
- プライベートゾーンの洗い方やトイレの時の拭き方について養護教諭から話を聞く。

汚れたままにしておくとは体に良くないんだね。

プライベートゾーンっていうんだよ。



おしっこやうんちが出る所は、特にきれいにしよう。

新しい命をつくる大事なはたらきがあるんだね。知らなかったよ。

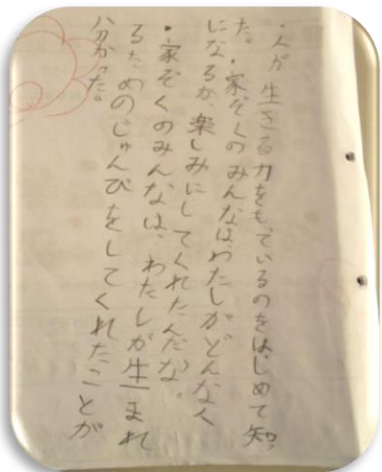
② 2年「いちまいのしゃしん (生命の尊さ)」(道徳)

- 教材文を読んで生命の尊さについて考え、話し合う。
- 自分は、家族や周りの人たちに支えられて大きくなっていることに気付く。
- 子育ての実体験を聞いた後、命の大切さについて分かったことをまとめる。



私は、子どもが熱を出したり、けがをしたりするたび、とても心配しました。

自分の命を大切に、これからも元気に過ごしていきたいな。



③ 3年「けんこうな生活」(体育 (保健))

- 健康に過ごすためには、どのようなことが必要か考え、清潔に身の回りの環境を保つことの大切さを理解する。
- 正しい手の洗い方を理解し、実践する。
- 健康と身の回りの環境について考え、グループで話し合う。
- 話し合ったことを発表し合い、身の回りの環境と健康は関係していることを理解する。

正しい手洗いの仕方がわかったよ。



明るすぎもよくないんじゃないかな。

ぼくたちは、かん気をすることが大切だと考えました。



④ 4年「育ちゆくわたし」（体育（保健））

- 思春期に現れる男女それぞれの体の変化について話し合う。
- 外からは見えない体の変化について養護教諭から話を聞く。

女の人は胸や腰に丸みがあり、女性らしい体つきになるよ。



ホルモンによって、月経（初潮）や射精（精通）が起こるよ。



現れる時期や変化の仕方には個人差があるんだよ。



卵子と精子が奇跡的にめぐり合って、新しい命が誕生します。

えー！？こんなに小さいのかあ。



自分もこうしてうまれて、大きくなってきているのがわかった。お母さんはがんばって赤ちゃんを育てているんだなと思いました。

私の命は大切なんだなと思いました。命を大切にしようと思いました。

うまれてくることはうれしいとだきましました。いかにうまれてくるのかたじみです。

⑤ 5・6年「男女の協力」（学級活動）

- 「“男女の協力”で、大切だと思うことは何か」グループで話し合う。 ※KJ法
- グループごとの発表をもとに、“男女の協力”で大切なことについて、全体で考える。

<児童の実態> 5・6年生複式学級15名（5年生：女子9名，6年生：男子6名）

令和2年度まで、5年生は女子9名，6年生は男子6名での単独学級であったが、令和3年度より、5・6年生の複式学級となった。それにより、異学年と一緒に学ぶ機会であると同時に、異性とと一緒に学ぶ機会ともなった。

4月当初は、異性との接し方が分からないという児童もあり、お互いに距離を置いている様子であったが、共に学び、一緒に遊び、協力しながら学校生活を送る中で、お互いの距離が自然と近くなっていったと感じている。

また、「異性と一緒になったことで、違う視点から考えることができるようになった」という児童もあり、男女一緒にいることでの学びが多くあったと捉えている。

【4月の意識】

- ・6年生だけがいい。
- ・嫌だなと思った。
- ・あまり仲がよくないから。

【12月の意識】

- ・5年と6年が一緒になってよかった。
- ・おにごっこ的人数が増えて楽しかった。
- ・修学旅行から帰ってきたら、黒板に「おつかれ」と書いてあってうれしかった。

相手の気持ちを考えることが大切じゃないかな・・・

“男女”で、差別をしないことが、大切だと考えました。

相手を思い合いながら、さらによいクラスにしていきたいね。



“男女の協力”で大切なことは何だろう？

みんな同じ思いなんだ。

5年 氏名
私は今まで「男女の協力」で大切な事は、仲良くするなどの友達へのせしかたと同じだと思っていました。でも今回の授業を受けて、「おたがいを思いやるということも大切だ」という事に気付くことができました。

5年 氏名
男女の協力について話し合っ、これからも、なかよくなれず、と思いましたが、これからも男女で助け合えるなかのよいクラスにしたいです。

6年 氏名
男女の協力で大切なことは、助け合う。相手を思いやる。男だから...女だから...の差別をしないことが大切だと思った。

<男女の協力で大切なこと>

KJ法による思考のグループ分け (1つの班を抜粋)

～思いやり～

- ・カに限りを考えること
- ・相手のことを考えること
- ・相手をお互いに思いやること

～助ける～

- ・助け合う
- ・助け合うこと

～話す～

- ・話し合う
- ・相手の話をよく聞く

～意識～

- ・みんな、びょうどう
- ・差別をしない

～その他～

- ・親切にする
- ・仲良くすること

まとめ

相手のことを考え、助け合えば、みんなで協力できる。

(3) 家庭教育学級による地域・保護者との連携

演題「大切なあなた・大切なわたし」 講師 社会福祉法人 太陽会 丸山 祝子（元助産師）

対象 4～6年児童・保護者

内容 ・生命（いのち）のはじまりから胎児の成長過程・誕生するまで

（小さな穴を開けた折り紙を使い、卵子の大きさから母体内の赤ちゃんの大きさを実感したり、産まれた赤ちゃんの人形を手にとって重さを実感したりする。）

- ・妊婦疑似体験（お腹に重しをつけて歩いてみたり、座ってみたりして動きづらさを体感する）
- ・いじめ・人権について
- ・自分の命を大切にする・周りの人の命も大切にする
- ・みんなの命は家族を含めた周りの人達に支えられている

講師の先生から優しい口調でわかりやすく教えていただき、児童も保護者も温かい雰囲気の中で、自分のこととして捉え真剣に聞いていた。



《児童の感想》

ぼくは、この授業で親の大変さや助産師の大変さ、自分の大切さをしっかりと学びました。これからは、少ない確率で生まれてきた自分や周りの人々を大切に思うようにしたいと思います。

お母さんは、わたしを大変な思いをして健康な体に産んでくれたことに感謝しています。わたしは、これからこの命をおだにしないように生きていきたいと思いました。

「大切なあなた・大切なわたし」というタイトルがすごくすてきなあとと思いました。卵子や精子についてもよくわかりました。わたしは、2億個の精子の中の1人、700万個の卵子の中の1人ということがわかり、自信をもってこれから生活していこうと思いました。

わたしは、授業で命がどれだけ大切なのかがわかりました。自分が2億分の1つという貴重な存在なんだなと思いました。なので、死にたいとか言ったり、自分を傷つけたりしてはいけないと改めて思いました。

ぼくは、妊婦体験をしました。座ったり、起き上がったり、妊婦さんがどれだけ大変なのかがわかり、お母さんのすごさを実感しました。そして、先生の話聞いて、命は尊いものだと思います。命の大切さを知りました。

わたしは、お腹の中にいる赤ちゃんの大きさを知って、びっくりしました。じん痛などの時、赤ちゃんもつらいことも知れて、自分のためになりました。

《保護者の感想》

自分が出産した時のことを思い出しました。成長するにつれ、ぶつかることも増え、正直ムカッとすることも多くなってきていて、悩んでいました。

しかし、このお話を聞いて、「キセキの命」と思って、日々向き合いたいと思直せました。

折り紙や人形等を使ってのお話は、保護者の私にもとてもわかりやすく、何度も驚きがありました。今回、このお話を聞くことができ、改めて我が子に出逢えた奇跡を感じることができ、心が温かくなりました。

(4) 児童を取り巻く「性に関する環境」の整備

①図書コーナーの設置

図書室に「みんなのからだところ」と称して図書コーナーを設けた。性に関する本を整理し、本の紹介をした。子供たちが恥ずかしがらずに、身近なものとして捉え、本を手にとって読みやすく、話しやすい雰

困気になるように環境を整えた。

朝学習や昼休みなどに図書室に行き、自由にみんなで本を読んだり、話をしたりしている様子が見られた。また、朝学習に教室で担任が読み聞かせを行った学級もあった。

②映像教材の活用

生命誕生、成長過程、人間関係、思春期の体と心の変化の内容のDVDを購入した。いずれも15分程度の内容で、必要な部分だけ視聴することができるようになっていたため、活用しやすかった。4年生は、保健学習の事後で視聴し、学習内容の再確認ができた。また、職員研修で視聴し、実践に役立てた。

③保健室前の掲示

保健室前に「こころの健康」のコーナーを設け、思いやりや認め合い、多様性、不安や悩みの解決法、友達との関わり方などを紹介している。



5 成果と課題

○成果

- ・養護教諭と協力して授業を行うことにより、より専門的な知識を、分かりやすく正しく理解させることができた。思春期に入り体に変化が起き始める時期の初潮指導などのように、発達段階や児童の実態に応じた性教育を行うことが、より効果的で実践的な知識に結びつくと感じた。
- ・今まで、性に関する内容については大切なものであるにも関わらず、児童が何か恥ずかしいものとして捉える傾向があり、教職員の中にも、指導の仕方について多少の不安や抵抗があった。しかし、学校全体で性教育の意義や内容について共通理解を図ることで、授業だけではなく、日々の学級経営や学校生活の中でも、そのことを意識した指導や個に応じた声かけにつながった。
- ・学校教育だけでなく、地域の助産師さんを講師とした家庭教育学級を開いたことで、性教育について保護者の関心を得ることができた。また、児童にとっても赤ちゃんが生まれるまでのことを正しく理解するとともに、「自分の命」や「友達の命」について見つめ直すよい機会にもなった。
- ・性に関する図書コーナーを設けたことで、児童が自然と手に取り、目にする環境ができた。教職員や友達と一緒に見るなどして知識を共有したり、意見を交換し合ったりする中で、性に関する内容をいやらしいものとして捉えるのではなく、自分達にとって大切なことなのだという意識を少しずつ育むことができた。

△課題

- ・令和3年度の実践をふまえ、時代の変化や社会のニーズ、本校の実態に応じた性教育についてさらに研修をすすめ、発達段階に応じたより効果的で実践的な教育実践について、発展的・継続的に行っていくことが大切である。
- ・コロナ禍でもあり、外部講師や保護者を招いての実践は、家庭教育学級1回のみであった。今後、状況が許せば、講演の機会や種類を増やしたり、授業参観や懇談会でも性教育に関する話題を取り上げたりして、家庭や地域との連携をさらに進めていく必要がある。また、学校便りや学年便り等で、学校での取り組みや児童の様子を家庭や地域に発信していくことも大切だと考える。
- ・今後、さらに、児童の発達段階や実態に応じた図書や映像資料、教材などの学習環境の整備をしていく必要がある。その際、教職員間で情報共有や情報交換を行い、児童にとってよりよい環境整備が望まれる。